

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

1日

大安 奎

旧7月17日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

てん し たい ほう りん
転四諦法輪

「四諦の法輪を転じ」

「四諦」は仏教の入口であり、また終点です。

お釈迦さまは最初の説法で「四諦」を説き、入滅の際にも「四諦」を説かれました。

「四諦」とは、人生は苦であると知る「苦諦」、苦の元は様々な心持ちの集合だと知る「集諦」、苦を除いた状態を知る「滅諦」、滅諦に至る道を知る「道諦」の四つを諦らかにすることです。煩惱や差別などの様々な「滅」を知ることが悟りであり、「滅」に至る道が仏道修行なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

2日

赤口 婁

旧7月18日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ご しゆ し しょう めつ

五衆之消滅

「五衆の消滅を説く」

「五衆」とは、次の「五蘊（ごうん）」のこと。

①色：様々な刺激に応じて起きる種々の感覚

②受：感覚によって生じる感情

③想：感情から生じる思想

④行：何かを実行しようとする意志

⑤識：対象を区別して知る認識

お釈迦さまは、四諦とともに、五蘊が生じたり滅したりする変化のありさまを説き続け法華経に至り、すべてを仏へと導かれたのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

3日

先勝 胃

旧7月19日

日曜

妙法蓮華経日宇喻品第三

ひつ とう とく き ぶつ
必当得作仏

「必ずまきに仏に成る」

お釈迦さまは、舎利弗が仏に成ると授記を与えられました。

法華経の説法の座にいた者たちも舎利弗と同じように仏に成れるのだと確信を得ます。

しかし、仏に成る道は容易に理解できるものではないので、お釈迦さまは方便によって浅い教えから深い教えへと説いてくださいます。

だから信心が深まってくると、仏さまと一緒にいるような心持ちになってくるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

4日

友引 昴

旧7月20日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

じん え こう ぶつ どう
尽回向仏道

「ことごとく仏道に回向す」

教えを学び、理解し、信じ、人を救うなどの修行してきた努力のすべてを、悟るために役立てる。それが回向です。

そして、自分が受けるべき功德を他者に振り向け人に譲る。それが巡り巡って自分が回向を受けることになり、結局は仏に成る道にながっていくのです。

煩惱を減することが悟りに至る道だと信じていた舍利弗はようやくやくそれに気づきました。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

6日

仏滅 齋

旧7月22日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

以^い譬^ひ喻^ゆ得^{とく}解^げ

「譬喻を以て解ることを得ん」

お釈迦さまは、方便として煩惱を除くことから説かれました。

諸仏が譬喻を用いて説いてから深い悟りに導くように、人々を救済するための準備の意味で方便を説くのだと前置きされました。

今から説く譬喻の意味が解ったならば、さらに深い教えも学ばなければならぬと諭されたうえで、「三車火宅の譬え」の説法が始まるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

7

日

大安 参

旧7月23日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

三車火宅の譬え

「火宅に遊ぶ衆生を救う譬え話」

私たちが暮らすこの世界は、濁り乱れ、安住することが出来ない火宅（火災にあっている家）であると喻えた説法。

火宅の中に遊ぶ子供らに、父親の長者が羊車・鹿車・牛車の三つの車を与えると告げて門外に誘い出し、火宅を出た後に三車より立派な大白牛車を与えます。

三車は声聞・縁覚・菩薩の三乗の教え、大白牛車は一仏乗。法華経を示しています。

妙法蓮華經譬喻品第三

昔於波羅剎

轉四諦法輪

分別說諸法

五衆之生滅

今復轉最妙

無上大法輪

是法甚深奧

少有能信者

我等從昔來

數聞世尊說

未曾聞如是

深妙之上法

世尊說是法

我等皆隨喜

大智舍利弗

今得受尊記

我等亦如是

必當得作仏

於一切世間

最尊無有上

仏道諫思議

方便隨宜說

我所有福業

今世若過世

及見仏功德

盡回向仏道

爾時舍利弗。

白仏言世尊。

我今無復疑悔。

親於仏前。

得受阿耨多羅三藐三菩提

記。

是諸千二百。

心自在者。

昔住學地。

仏常教化言。

我法能離。

生老病死。

究竟涅槃。

是學無學人。

亦各自以離我見。

及有無見等。

謂得涅槃。

而今於世尊

前。

聞所未聞。

皆墮疑惑。

善哉世尊。

願為四衆。

說其因緣。

爾時仏告。

舍利弗。

我先不言。

諸仏世尊。

以種種因緣。

譬諭言詞。

方便說法。

皆為阿耨多羅三藐三菩提耶。

是諸所說。

皆為化菩薩故。

然舍利弗。

今當復以譬諭。

更明此義。

諸有智者。

以譬諭得解。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

8日

白露

赤口 井

旧7月24日

金曜

妙法蓮華経譬喩品第三

ゆい

う

いち

もん

唯一門

「唯一つの門あり」

ある大長者が住む家には財産や財宝が溢れており、多くの召使いも雇っていました。

その広大な家には門が一つしかありません。

財宝が溢れる大きな家は、大いなる仏さまの悟りの境地の譬えです。

一つしかない門は、仏さまの悟りの道への入口の譬えです。

よほどしっかりと見極めていかないと、一つしかない門を見逃してしまいます。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

9日

仏滅 鬼

旧7月25日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

不覚不知

ふ かく ふ ち

不驚不怖

ふ きゆう ふ ふ

「覚えず、知らず、驚かず、怖れず」

火災に包まれた家の中で戯れ遊ぶ子供たちは、生命の危機に気づかず、自分が住む家の現状を知ろうともせず、それ故に驚くことも怖れることもなく、平然としていました。家が燃えていると知っていても、大したことはないという油断をしている子供もいました。まるで現代の私たちのようです。炎がすぐそばまで迫っていることを自覚するのは難しいものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

10日

友引 柳

旧7月26日

日曜

妙法蓮華経譬喩品第三

が しん しゅ う りき

我身手有力

「我れ身手に力あり」

父である長者には体力があり、カづくで子供たちを外に押し出すこともできました。

しかし、門が一つで狭いことに気づき、かえって危険であると思い留まりました。

そこで長者は子供たちが自分の足で外へ出るようにと仕向けるため、彼らが興味を持っている三つの車が外にあると誘い出すのです。

無理強いしたり、形式だけを伝えても、教えの真髄は伝わらないことの譬えです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

11

日 月曜

先負 星

旧7月27日

妙法蓮華経譬喻品第三

視し父ぶ而に已い

「ただ父を見つめるばかりだった」

父である長者は子供たちを救うために、早く出て来いと呼びかけます。

しかし、遊びに夢中になっている子供たちは、父が危険だと訴えても、何が危険なのかもわからず、驚きもせず、怖れもしません。

ただ父が呼ぶのを見つめているだけでした。私たちを取り巻く世界の危機に気づかず、快樂に溺れて暮らしている様子を、仏さまは齒がゆくご覧になっていることでしょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

12日

仏滅 張

旧7月28日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ご ひつ う け
後必憂悔

「後に必ず憂悔せん」

父である長者は、子供たちが欲しいと望む玩具が門外にあると誘いました。

簡単に手に入らない物は、いずれそのうちに手を入れようと思っていると、いつの間にかその機会は過ぎ去ってしまうものです。

まさに「いつやるの？ 今でしょ！」というタイミングで、長者は子供たちが興味を示す三つの車が門外にあるとの方便を設けて誘い出したのでした。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

13日

大安 翼

旧7月29日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

よう

しゃ

ろく

しゃ

ご

しゃ

羊車 鹿車 牛車

「方便の三つの車」

長者が子供たちを誘い出す方便に示した三車が羊車・鹿車・牛車で三乗ともいいます。

羊車 || 声聞：仏の教えを聞いて四諦の理を観じ、世の中に囚われない心を作る教え。

鹿車 || 縁覚乗：実際の事実と思ひ合せ縁によって覚る教え。

牛車 || 菩薩乗：人々を救うことに喜びを感じ仏界に至ることを目標とする教え。

三つの車を乗り継いでも悟りに至りません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

14日

赤口 軫

旧7月30日

木曜

妙法蓮華経譬喩品第三

四衢道中

「四辻の真ん中に座る」

「四衢」とは四方に通じる広い道のこと。

四辻の真ん中に立てばどの方向にも自由に行
くことができることから、心が自由になり物
事に囚われなくなることの譬えです。

三車に誘われて火宅から逃れ出た子供たち
が、四衢に座って喜ぶさまは「苦」を取り除
かれて解放された状態を示しています。

そして、長者は子供たちに三車ではなく大き
な白い牛の車を与えるのです。

妙法蓮華經譬喻品第三

舍利弗。若国邑聚落。有大長者。其年衰邁。財富無量。多有田宅。及諸僮僕。其家广大。唯有一門。多諸人衆。一百二百。乃至五百人。止住其中。堂閣朽故。墻壁頽落。柱根腐敗。梁棟傾危。周唱俱時。殼然火起。焚燒舍宅。長者諸子。若十。二十。或至三十。在此宅中。長者見是大火。從四面起。即大驚怖。而作是念。我雖能於。此所燒之門。安穩得出。而諸子等。於火宅內。樂著嬉戲。不覺不知。不驚不怖。火來逼身。苦痛切己。心不嚮患。無求出意。舍利弗。是長者。作是思惟。我身手有力。當以衣弓。若以几案。從舍出之。復更思惟。是舍唯有一門。而復狹小。諸子幼稚。未有所識。恋著戲處。或當墮落。為火所燒。我當為說。怖畏之事。此舍已燒。宜時疾出。無令為火。之所燒害。作是念已。如所思惟。具告諸子。汝等速出。父雖憐愍。善言誘諭。而諸子等。樂著嬉戲。不肯信受。不驚不畏。了無出心。亦復不知。何者是火。何者為舍。云何為失。但東西走戲。視父而已。爾時長者。即作是念。此舍已為。大火所燒。我及諸子。若不時出。必為所焚。我今當設方便。令諸子等。得免斯害。父知諸子。先心各有所好。種種珍玩。奇異之物。情必樂著。而告之言。汝等所可玩好。希有難得。汝若不取。後必憂悔。如此種種。羊車。鹿車。牛車。今在門外。可以遊戲。汝等於此火宅。宜速出來。隨汝所欲。皆當與汝。爾時諸子聞父所說。珍玩之物。適其願故。心各勇銳。互相推排。競共馳走。爭出火宅。是時長者。見諸子等。安穩得出。皆於四衢道中。露地而坐。無復障礙。其心泰

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

15日

友引 角

旧8月1日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

等とう一いつ大だい車しゃ

「平等に大きな車を与える」

火宅から脱出した子供たちは、三つの車を与えてくれるようにと長者に懇願します。

そこで長者は子供たち皆に大きな白い牛の車を与えました。

この「大白牛車」が、平等に仏に成ることができる教え「法華経」の譬えです。

火宅から助け出し「苦」から解放するだけではなく、仏に成れるという「楽」も与えてくださった「拔苦与楽」もあらわしています。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

16日

先負 亢

旧8月2日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ご しゃ こう こう

其車高広

「大いなる理想を持って進む」

ここからは「大白牛車」の様相について読み解いていきます。

「高く広い」とは、広大なる望みを持つということ。その車は仏の智慧を求めるといふ大きな理想を持って進むという意味です。

仏さまと同じ智慧を具えて、物事の真実の相を見極めることができるようになれば、世の中の動きや人間関係などに振り回されることもなく、平穏でいられるはずです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

17日

仏滅 氏

旧8月3日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

衆しゆ宝ほう莊しやう校きやう

「多くの宝をもって美しく飾る」

「大白牛車」の様相の二つ目。

「衆宝」とは、多くの善事のこと。

親孝行や育児、人助けなど、暮らしの中で当たり前に積み重ねていることも善事です。

しかし親しいゆえに、わがままや甘えの心が生じ、善事を積めないこともあります。

常に仏さまのようにありたいと心がけて自分を磨いて飾っていれば、迷うことなく善事を積めるようになるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

18日

敬老の日

大安 房

旧8月4日

月曜

妙法蓮華経譬喩品第三

しゅう

そう

らん

じゅん

周市欄楯

「車の周囲には欄干がある」

「大白牛車」の様相の三つ目。

「周市欄楯」とは、車が揺れても落ちないよう
に周りに欄干がついているということ。

善い心をたもち、悪い心を抑えることを記憶
して忘れないようにする「陀羅尼」を示して
います。

「陀羅尼」は修行者が覚えるべき教えや作法
などを指していましたが、転じて「暗記される
べき呪文」と解釈されるようになりました。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

19日

赤口 心

旧8月5日

月曜

妙法蓮華経譬喩品第三

四面懸鈴

「四面に鈴を懸け」

「大白牛車」の様相の四つ目。

車の四面に懸けられた鈴の音が響き渡るように教えが広がっていく様子を譬えています。

一人が悟りに向かって善行を積んでいると、周囲の人にもその教えが広がるものです。

言葉や經典によって伝わる方法もあります。が、日々の暮らしの中でさりげなく積み重ねる善行によって、周囲の人たちにゆっくと深く浸透していく伝わり方が鈴の音なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

20日

先勝 尾

旧8月6日

木曜

妙法蓮華経譬喩品第三

張設幟蓋

「幟蓋を張り設け」

「大白牛車」の様相の五つ目。

「張設幟蓋」とは、車の上に屋根を張り設けることで、人々を救護する働きの譬えです。

救護の「救」は苦から逃れられず危うく落ちそ
うな人を救うこと、「護」は駆け込んだ人
の生きる力が回復するまで護ることです。

まさに駆け込み寺の機能です。

悟りの道を進む修行者は、全ての衆生を救護
する働きを担うということです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

21日

友引 箕

旧8月7日

金曜

妙法蓮華経譬喩品第三

ちん き ざう ぼう
珍奇雑宝

「珍奇の雑宝で飾る」

「大白牛車」の様相の六つ目。

「珍奇雑宝」とは、様々な宝で車を飾ること
で、状況に応じて適切な善行を積むことの譬
えです。

相手が何を望んでいるのかを慮ることができ
なければ善行を積むことはできません。

さりげなく相手の望む手助けができる
と珍奇雑宝が貯まっていくのでしよう。

仏道の修行者が心得ておきたいことです。

妙法蓮華經譬喻品第三

舍利弗。爾時長者各賜諸子。等一大車。其車高広。

衆宝莊校。周帀欄楯。四面懸鈴。又於其上。

張設幘蓋。亦以珍奇雜宝。而嚴飾之。宝繩絞絡。

垂諸華瓔。重敷議燕。安置丹枕。駕以白牛。

膚色充潔。形体美好。有大筋力。行步平正。

其疾如風。又多僕從。而侍衛之。所以者何。

是大長者。財富無量。種種庫藏。悉皆充溢。

而作是念。我財物無極。不応以下劣小車。与諸子等。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

22日

先負 斗

旧8月8日

金曜

妙法蓮華経譬喩品第三

ほうじょう きょうらく

すい しょ け しょう

宝繩絞絡 垂諸華璎

「宝繩絞絡して 諸の華璎を垂れ」

「大白牛車」の様相の七つ目。

車の四方に宝の繩が懸けられ、その繩に美しい璎珞が飾り付けられている様子は、「四弘誓願」をたもち続けることの譬えです。

「四弘誓願」とは、①数限りない人々を救う ②数限りない煩惱を断じる ③数限りない教えを学ぶ ④必ず仏に成るといふ四つの誓願です。法要の最後に「四弘誓願」をお唱えするのも、この誓願を忘れないようにするためです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

23日

秋分

仏滅 女

旧8月9日

土曜

妙法蓮華経譬喩品第三

じゅう ふ おん えん

重敷 紈 紵

あん ち たん ちん

安置 丹 枕

「禅定を得て、仏の智慧を具える」

「大白牛車」の様相の八つ目。

「紈 紵」は敷布団のような寝具、「丹 枕」は赤い枕のこと。

布団は心の禅定の譬え。布団に落ち着いて寝ると心が安定してきます。

赤い枕は仏さまの智慧が具わること。

赤には真実という意味があります。

心の禅定を得ると、仏さまの真実の智慧が具わってくることの譬えです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

24日

大安 虚

旧8月10日

日曜

妙法蓮華経譬喩品第三

駕が以い白牛びやくご

膚色ふ充潔しきじゆうけつ

形ぎ体よう姝好たいししゅこう

有う大筋力だいきんりき

「車を引く白い牛の力」

「大白牛車」の様相の九つ目。

「白牛」は一切の邪念を取り去った心の状態を示し、心が極めて堅固になり、艱難辛苦を乗り越えられるようになることの譬えです。

「膚色充潔」（膚はだの色が美しい）と「形体姝好」（体形が立派である）は、智慧の働きが優れていることの譬えです。

「大筋力」は迷いと取り除く力を示します。白い牛は仏道を迷わず進む原動力なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

25日

赤口 危

旧8月11日

月曜

妙法蓮華経譬喩品第三

ぎよう ぶ びよう しょう
行歩平正

「中道を歩む」

「大白牛車」の様相の十番目。

迷いなく真っすぐ歩む白い牛は「中道」を歩むことに譬えられます。

他者との違いに囚われて差別につながるようなことなく、また自分中心なものの方に見方囚われることもなく、適切に判断しながら偏らず真ん中を歩むというのは難しいものです。仏さまの目でものを見るように心がけて、周囲の人と中道を歩みたいものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

26日

先勝 室

旧8月12日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

其疾如風

「其の疾きこと風の如し」

「大白牛車」の様相の十一番目。

「大白牛車」に乗り、寄り道をせず成仏の直道を進むことを、風が駆け抜けることに譬えています。

煩惱に惑わされることなく、仏さまの教えを学び、実践し、世のため人のためになるように努めていけば、それが成仏の直道であり、風のような速さで悟りへとたどり着く近道であるということです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

27

日

友引 壁

旧8月13日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

又多僕従う た ぼくじゆう 而侍衛之に じ せい

「仏さまの教えに感化される者たち」

「大白牛車」の様相の十二番目。

「大白牛車」を護衛する従者が大勢いるというのは、仏さまの大きいなる教えに感化されて付き従う人が増えていくことの譬えです。

始めは種々の方便の教えに興味を抱き着いてきた人も、徐々に真実の教えにふれながら、「大白牛車」とともに歩むようになります。

法華経を信仰するということは、「大白牛車」とともに歩むということなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

28日

先負 奎

旧8月14日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ふ ぎ しゃ べつ
不宜差別

「宜しく差別すべからず」

長者には限りない財宝が多く、蔵に充滿して
いるので、本当に良いものを、どの子にも差
別することなく平等に与えました。

同じように、仏さまは善人でも悪人でも、賢
者でも愚者でも、悟りへと向かう真実の教え
をお説きになります。

始めに三車を見せて、最終的に大白牛車を与
えたように、まず方便の浅い教えを示して、
最後に深い教えを説かれるのです。

妙法蓮華經譬喻品第三

舍利弗。爾時長者各賜諸子。等一大車。其車高広。衆宝莊校。周喝欄楯。四面懸鈴。又於其上。張設刑蓋。亦以珍奇雜宝。而嚴飾之。宝繩絞絡。垂諸華瓔。重敷紈縵。安置丹枕。駕以白牛。膚色充潔。形体姝好。有大筋力。行步平正。其疾如風。又多僕從。而侍衛之。所以者何。是大長者。財富無量。種種庫藏。悉皆充溢。而作是念。我財物無極。不応以下劣小車。与諸子等。今此幼童。皆是吾子。愛無偏黨。我有如是。七宝大車。其数無量。応当等心。各各与之。不宜差別。所以者何。以我此物。周給一國。猶尚不匱。何況諸子。是時諸子。各乘大車。得未曾有。非本所望。舍利弗。於汝意云何。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

29日

仏滅 婁

旧8月15日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

非^ひ本^{ほん}所^{しよ}望^{もう}

「もとの所望にあらず」

子供たちは自分が望んでいた三つの車よりも立派な「大白牛車」を目の前にして、いまだかつてないほどの大きな喜びを得ました。

私たち凡夫は自分が仏に成れるなどは想像もできません。

しかし、一生懸命に修行をしていくと、自然と仏さまの境地に近づき、自分でも思ってもいなかったほどの幸福が得られるということの譬えです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

9月

30日

大負 胃

旧8月16日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ひ い こ もう

非為虚妄

「これ虚妄にあらず」

長者が子供たちを助けるために三車を与えると言ったことは、嘘をついたことになるかと、お釈迦さまは舍利弗に尋ねました。

舍利弗は、命を救うための方便であり、さらには「大白牛車」という大きな宝まで与えたのだから、嘘とは言えませんと答えました。

穢れた世の中から逃れたいと仏教に入ったとしても、修行が進めばやがて自らが仏に成れるのだから、嘘も方便ということなのです。

妙法蓮華經譬喻品第三

我財物無極。不忘以下劣小車。与諸子等。今此幼童。皆是吾子。愛無偏黨。我有如是。七宝大車。其數無量。应当等心。各各与之。不宜差別。所以者何。以我此物。周給一國。猶尚不匱。何況諸子。是時諸子。各乘大車。得未曾有。非本所望。舍利弗。於汝意云何。是長者。等与諸子。珍宝大車。寧有虚妄不。舍利弗言。不也。世尊。是長者。但令諸子。得免火難。全其軀命。非為虚妄。何以故。若全身命。便為已得。玩好之具。況復方便。於彼火宅。而拔濟之。世尊。若是長者。乃至不与。最小一車。猶不虛妄。何以故。是長者。先作是意。我以方便。令子得出。以是因緣。無虚妄也。何況長者。自知財富無量。欲饒益諸子。等与大車。